



ServerView Suite ServerView Virtual-I/O Manager 補足情報

■ はじめに

本書は、ServerView Virtual-IO Manager V2.6に関連する以下のマニュアルの補足情報です。本書をお読みに
なる前に、必ず以下のマニュアルもご覧ください。

- ServerView Virtual-IO Manager V2.6 取扱説明書 (sv-viom-ja.pdf)
- ServerView Virtual-IO Manager CLI V2.6 – Command Line Interface (sv-viomcli-jp.pdf)

■ 対象バージョン

本書は、以下のバージョンの ServerView Virtual-IO Manager(以下 VIOM)を対象にしています。

本書の対象バージョン : V2.6

■ 補足情報

(1) ライセンスおよび製品サポート

Virtual-IO Manager をご使用になるにはライセンス購入が必要です。管理対象のサーバ数のライセンスを用意してください。

- ライセンスは有償です。1 ターゲットサーバブレード毎に 1 ライセンスが必要です。
- Virtual-IO Manager では有償サポートメニューをご用意しています。万が一のトラブル対応等につきましては、SupportDesk 契約が必要となります。ライセンス購入されても、本製品に対するサポート契約を締結されていない場合は、QA 対応やトラブル対応を実施することができません(有償サポート契約がある場合のみ対応可能)。本製品はその性格上、システム構築時より利用するケースが多いため、システム構築時よりサポート契約を締結頂くことを推奨いたします。
- 従来のライセンス製品 (PG-SVVM01) を VIOM V2.4 以降で使用することができます。1 ライセンス当たり、18 サーバライセンスとして計上されます。

(2) システム要件

- Virtual-IO Manager V2.6 以降では Red Hat Enterprise Linux 5.6 / 5.7 / 6.0 / 6.1 をサポートします。Red Hat Enterprise Linux 5.5 はサポートしていません。
- 64 ビット Java は未サポートです。Virtual-IO Manager は 64 ビット Java では動作しません。32 ビット Java をインストールの上、32 ビット Internet Explorer を使用してください。
- Java7 は未サポートです。

(3) ServerView Virtual-IO Manager V2.6 のサポート状況およびサポート前提要件

Virtual-IO Manager V2.6 のサポート状況およびサポート前提要件について記載します。なお、未サポートのハードウェアにつきましては、新バージョンの VIOM でサポートしている可能性がありますので、新バージョンのサポート状況も合わせてご確認ください。

ハードウェア	サポート可否	BIOS / ファームウェア	管理番号※1
BX600 Sx シャーシ / BX600 ブレード全モデル	×※2	-----	-----
BX900 S1 シャーシ	○	MMB Firmware 4.71 以降※3	PGY0302
BX400 S1 シャーシ	○	MMB Firmware 6.13 以降※3	PGY0325
BX920 S1	○	BIOS 3B39 / iRMC Firmware 4.84G 以降	PGY0306
BX922 S2	○	全バージョン	-----
BX920 S2	○	全バージョン	-----
BX924 S2	○	全バージョン	-----
BX960 S1	○	BIOS 1.16 / iRMC Firmware 5.20G 以降	PGY0307
スイッチブレード (1Gbps 36/12)	○	2.14 以降	PGY0281
スイッチブレード (1Gbps 36/8+2)	○※4	2.18 以降	PGY0320
スイッチブレード (1Gbps 18/6)	○	全バージョン	-----
スイッチブレード (10Gbps 18/8)	○	V02.00 NY0036 以降	PGY0280
LAN パススルーブレード (10Gbps 18/18)	○	全バージョン	-----
ファイバーチャネルスイッチブレード (8Gbps 18/8)	○	全バージョン	-----
ファイバーチャネルパススルーブレード (8Gbps 18/18)	○	全バージョン	-----
LAN 拡張ボード (1Gbps)	○	全バージョン	-----
LAN 拡張ボード (10Gbps)	○	全バージョン※4	-----
ファイバーチャネル拡張ボード (8Gbps)	○	ファームウェア 1.11A5 / BIOS 3.11A5 以降	PGY0192
コンパージド・ネットワーク・アダプタ拡張ボード	×	-----	-----

※1) 管理番号は下記 BIOS / ファームウェア一覧ページの管理番号になります。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/bios/>

※2) BX600 Sx シャーシ / BX600 ブレード全モデルのサポート予定はありません。

※3) 搭載ハードウェアによっては、より新しい MMB Firmware が必要になる場合があります。搭載ハードウェアの要件を必ずご確認ください。

※4) LAN 拡張ボード (10Gbps) を搭載した BX920 S1、BX922 S2、BX920 S2 は BIOS / ファームウェアのアップグレードが必要です。BX920 S1 に搭載する場合、BIOS 3B52 / iRMC Firmware 4.98G 以降 (管理番号: PGY0306) を適用する必要があります。BX922 S2 に搭載する場合、BIOS 3C56 / iRMC Firmware 4.98G 以降 (管理番号: PGY0304) を適用する必要があります。BX920 S2 に搭載する場合、BIOS 3C56 / iRMC Firmware 4.98G 以降 (管理番号: PGY0303) を適用する必要があります。

(4) マニュアル、リリースノート

- ・ インストーラが格納されているフォルダに日本語版のリリースノート (ReadMe_ja.htm) が格納されています。
- ・ リリースノートの「1.2 納品」に記載されている ServerView Software CD および Virtual-IO Manager のライセンスの注文番号は海外における注文番号です。日本国内での注文番号につきましては、システム構成図にてご確認ください。

(5) インストール時に入力した指定MACアドレスおよびWWNアドレスの妥当性チェックは行いません

インストール時に入力した指定 MAC アドレスおよび WWN アドレスにつきまして、妥当性のチェックは行いません。正しいアドレスを入力したことをよく確認した上で、次の画面に進んでください。

(6) インストール後にJavaキャッシュデータを消去してください

Virtual-IO Manager をインストールした後、Virtual-IO Manager の画面を起動する前に、必ず Java のキャッシュデータ(一時ファイル)を消去してください。コントロールパネルから Java を起動して、基本タブのインターネット一時ファイルの[設定...]ボタンから実施できます。

(7) Server View Virtual-IO Managerのアップデート手順

Virtual-IO Manager V2.1 および V2.2 から、V2.4 以降にアップデートするときには以下の手順でアップデートを実施してください。

- 1) Virtual-IO Manager V2.1 を使用している場合は Virtual-IO Manager V2.2 にアップデートします。
- 2) Operations Manager を V5 にアップデートします。
- 3) Virtual-IO Manager を V2.4 以降にアップデートします。

(8) ヘルプメニュー

- ・ヘルプボタンをクリックしたとき、ヘルプウィンドウは Virtual-IO Manager ウィンドウの後ろに表示されます。タスクバーでヘルプウィンドウをクリックして参照してください。
- ・Operations Manager V5.01.02 未満を使用している場合、メニューバーのヘルプから VIOM のバージョン情報を正しく表示できません。バージョン情報は Release Notes で確認してください。
- ・下記の半角記号は特殊文字としての扱いになりますので、検索対象に指定できません。
! " & | () + * . ^ ¥ ?
- ・検索対象にアルファベットを一文字だけ入力して検索したとき、検索結果が正しく表示されない場合があります。

(9) サーバブレードのBIOS、ファームウェアや拡張カードのBIOM、ファームウェアをアップデートした後、インベントリブートを実施してください。

Virtual-IO Manager で管理しているサーバブレードの BIOS、ファームウェアや拡張カードの BIOM、ファームウェアをアップデートした後は、インベントリブートを実施してください。インベントリブートは 2 通りの方法があります。

・方法 1

VIOM のマネージャ画面からインベントリブートを実行します。「サーバブレード構成」タブを開き、対象のサーバブレードを選択して、インベントリブートボタンをクリックしてください。

・方法 2

サーバブレードの抜き差しにより実施します。なお、抜き差しの際はサーバブレードを抜いた後 30 秒程度

おいてから挿してください。サーバブレードを挿した後、自動で電源が入り、ハードウェアの情報を収集します(インベントリブート)。情報収集後、自動で電源をダウンします。Virtual-IO Manager でプロファイルを割り当てている場合は設定によってはそのまま継続稼働します。

(10) サーバブレードBX960 S1 を使用する場合

- ・BIOS を更新した後、USB メモリは取り外してください。
- ・iSCSI ブートを設定する場合は、iSCSI ブートチャネルを 2 つ設定してください。また、下のスロット側のオンボードポートに iSCSI ブートのブートチャネルを設定してください。

(11) Server View Operations Managerを再インストールするときはServerView Virtual-IO Managerも再インストールする必要があります

Operations Manager をアンインストールしてから再度インストールする場合は下記の手順で Virtual-IO Manager も再インストールを行う必要があります。

- 1) Virtual-IO Manager の構成のバックアップを行います。
- 2) Virtual-IO Manager と Operations Manager をアンインストールします。
- 3) Operations Manager を再インストールします。
- 4) Virtual-IO Manager を再インストールします。
- 5) Virtual-IO Manager の構成のリストアを行います。

(12) Linuxコマンドラインを使用したライセンスの登録手順

グラフィカルではない環境でライセンスを登録、削除する場合は以下のコマンドラインを実行します。

- ・新規にライセンスを登録する

```
cd /opt/fujitsu/ServerViewSuite/plugins/viom/Manager
sh ./license.sh --no-gui
```

実行例)

```
# sh ./license.sh --no-gui
Running VIOM LICENSE MANAGER ...
=====
VIOM_LICENSE_MANAGER
=====
Enter license key or 'exit' to exit LICENSE_MANAGER:
XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
added XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX (v2),¥u5168¥u3066,¥u6c38¥u4e45,18
```

- ・登録済みライセンスを削除する

```
cd /opt/fujitsu/ServerViewSuite/plugins/viom/Manager
java -jar ./VIOM-LICENSE-MANAGER.jar -remove XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
```

以上